

教育目標

- ① 自分のことは、自分でできること。
- ② 「おはよう」の挨拶ができること。
- ③ 「ありがとう」と、すぐにお礼を言えること。
- ④ 人の目を見て、しっかりと話を聞けること。
- ⑤ 自分の思ったことを、言葉で伝えられること。

保育の重点

(保育の重点は、挨拶・良い姿勢・歩く・考える・思いやり・絵本を読むです。)

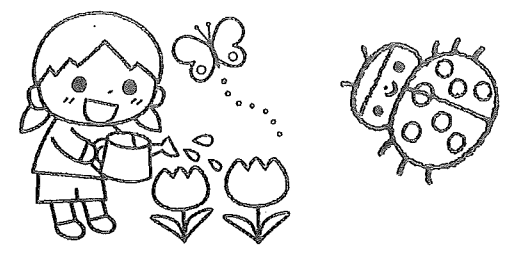
- ★挨拶 ……目と目を合わせてしっかりと挨拶し、コミュニケーション力を高める。
- ★良い姿勢 ……身体・脳の発達に、正しい姿勢はとても大切である。
- ★歩く ……歩く事で体力をつける。
- ★考える ……自分で考えたり、工夫したりすることを日常的に行うようにし、自分で考えて行動する習慣をつける。
- ★思いやり ……お友だちの気持ちに気づき、仲良く遊ぶことができる。
- ★絵本を読む ……創造力・集中力をつける

以上の重点を、日常の保育に意識的に取り入れて指導していきます。
一人一人の子どもを見つめ、一人一人の育ちを大切に保育をしていきます。



年少の保育の重点

- 甘えたい気持ちを、十分に満たしながら、保育者を心のよりどころとし、その子なりのペースで安心して生活が送れるようにする。
- 先生の話しを、しっかりと聞けるようにする。
- 一人ひとりの幼児の発達に合わせて、必要な経験が得られることや必要な生活習慣が身についていくように援助する。



年中の保育の重点

- 入園・進級による情緒の不安定がみられるので、園生活の仕方や遊び方を知らせ安定をはかる。
- 一人ひとりの興味・関心・思い・発達・友だち関係を、しっかりと読みとっていくようにする。
- 旺盛な好奇心を満たしながら、仲間との遊びが楽しめるよう配慮していく。
- 各自が思っている事、感じた事を素直に表現できるようにする。



年長の保育の重点

- 一人ひとりが園生活を十分に楽しみ、自信を持って色々な事に取り組めるようにするとともに、トラブル・葛藤なども自分たちで解決していけるような、好ましい友だち関係を育てる。
- 自分たちの毎日の生活や、遊び、行事などは、自分たちで考え合って作りあげていく喜びや、満足感が味わえるよう支えていく。
- 一人ひとりの子どもの実態を常に把握し、育てほしい願いを持ちながらそれぞれの個性を大切に育てる。

